

第2学年〇組 外国語科学習指導案

指導者 楠田 千明

1 単元 「福岡 PR 大使になろう」(NEW CROWN 2 Lesson 5 との関連)

2 指導観

- 旅行パンフレットには、写真や体験談などを通して、食や自然、体験などのその地域ならではの情報や魅力がぎっしりと掲載されている。旅行前に情報を知るだけでなく、パンフレットを読むだけでも楽しい旅行気分を感じることができたり、いつかその地域に行きたいという気持ちになったりすることができる。福岡の魅力についてパンフレットを作成することは、初めてパンフレットを手にした人にも伝わるような簡潔で分かりやすく表現する力を高めることになる。また、比較表現を用いることで、受信側にとって既知である具体的なイメージを抱かせて相手の興味を引き出せるため、実際に行ってみたいと思うような表現にすることができるようになる。

本活動は、「福岡PR大使になろう」を活動主題として、海外からの旅行者向けに福岡の魅力を発信するパンフレットを作成する。この活動を通して子どもは、福岡の良さや魅力について表現できるようになる。また、日本の良さを積極的に外国の人々に発信することで、世界の中の日本人としての自覚を高めることができるため有意義な活動になると考える。

- 本学級の子ども(〇名)は、これまでの学習の中で、ポスターセッションの形式で人物を紹介したり、職業について自分の考えを述べたりしてきた。事前のアンケートで「日本の魅力(自由記述)」を問うと、着物や花火、団扇、伝統工芸品などの「和の文化」や、おもてなしや思いやりの心、礼儀、協調性を重んじる精神など、「日本人の心」を魅力と捉えていた。平仮名・片仮名・漢字の3種類の文字表記や、省略して言う奥ゆかしさ、方言など、言語的な豊かさを答えた子どももいた。その上で、「福岡の魅力(自由記述)」を問うと、ラーメンや焼き鳥などの「食」(〇名)、伝統工芸品が多い(〇名)、方言のおもしろさ・豊かさ(〇名)、アジア諸国から近く、自然と都市とのバランスがよい(〇名)等であった。また、**exciting** や **delicious** 等の物事の様相や状態を表す形容詞・副詞を書く20問テスト(20点満点)では、平均が約〇点であった。

以上のことから、子どもは日本文化や福岡ならではの魅力についてそれぞれ自分なりの考えをもっていることが分かった。一方で、それらの魅力を表すための語彙である形容詞や副詞に関する定着が十分でないことが分かった。そのため、子どもたちの思いや考えと関連付けながら語彙の習得を図り、適切に活用できるように援助する必要がある。

- そこで本活動では、比較表現(比較級、最上級、原級)を使って自分の考えを主張したり聞き手とやりとりしたりしながら合意形成を図り、海外からの旅行者に向けて福岡の魅力を PR できるようになることをねらいとする。そのために、第一次では、福岡の魅力を発信することに意欲を高め、学習課題を設定することができるように、JTE と ALT のモデルを見る場を設定する。第二次では、比較表現を用いてやりとりする力を高めることができるように、ミニディスカッションにピア・フィードバックを返す場を設定する。第三次では、即興的にやりとりする力を発揮することができるように、修学旅行先の京都で海外からの旅行者に話しかけ、作成した福岡 PR パンフレットをわたす場を設定する。

3 目標

- 比較表現(比較級、最上級、原級)を理解し、それらを用いて福岡の魅力について述べ合うことができる。(知識及び技能)
- 海外の人に「福岡に行ってみたい」と思ってもらえるように、食や観光などの魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 福岡の魅力を英語で発信できるように、事実と意見や感想を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり相手からの質問に答えたりしようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

4 計 画 (10時間+α)

次	学習活動・内容	手だての内容・方法・留意点	観点：評価規準
一	<p>1 本単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の観光経済波及効果 (約1兆1,000億円) ・アジア 49.3%、北米 20.6%等 ・What is the good point of Fukuoka? ・食/地理/言語/歴史/文化 ・魅力について試しのやり取り ・学習課題の設定 <p>外国人観光客を福岡へ呼び込もう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡の魅力を発信することに意欲を高めることができるように、令和4年度の「観光客の動向に係る調査(京都市産業観光局)」について知る場を設定する。 ・単元の見通しをもつことができるように、JTEとALTのモデルを見る場を設定する。 	<p>態：福岡の魅力について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合おうとしている。</p>
二	<p>2 比較表現を学習する。</p> <p>(1) 比較級を使って事実を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Fukuoka tower is taller than Kyoto tower. <p>(2) 原級を使って説明・描写する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Fukuoka is as large as Kyoto. ・Fukuoka's population density is twice as high as Kyoto's. <p>(3) 最上級を使って意見を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 is the most difficult kanji. We use it for 日曜日,日本,今日... 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較表現を理解することができるように、タスクを設定しやりとりの中で活用する場を設定する。 ・比：【地理クイズで満点取ろう】 ・原：【福岡との共通点探し】 ・最：【最も〇〇な漢字はなに?】 	<p>知：比較表現(比較級、最上級、原級)について理解している。</p> <p>知：比較表現を用いて、福岡の魅力について、述べ合う技能を身に付けている。</p>
本時	<p>3 福岡 PR パンフレットと Thanks Card を作成する。</p> <p>(1) 内容面の議論を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Which do you like better, summer in Fukuoka or winter? ・What is the best food in Fukuoka for foreign people? 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に応じて表現を工夫することができるように、比較表現を用いて魅力についてミニディスカッションする場を設定する。 ・やりとりを振り返り、表現を磨くことができるように、ピア・フィードバックの場を設定する。 	<p>思：福岡の魅力を発信できるように、事実と意見や感想を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり相手からの質問に答えたりしようとしている。</p>
	<p>(2) ALTと予行演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・May I talk to you for a minute? ・Are you interested in Fukuoka? 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力の内容を再構成することができるように、ALTに紹介し、付加・修正する場を設定する。 	
三	<p>4 京都でパンフレットを配布する。</p> <p>(1) 海外からの旅行者に話しかけ、応えてくれた方へパンフレットと Thanks Card を渡す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Do you speak English? <p>(2) 活動全体の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の結果を持ち寄り、学年全体で1つの福岡 PR 世界地図を作る ・どんな場面で、どのような表現を用いることができたか ・どんなコミュニケーションをすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・即興的にやりとりする力を発揮できるように、福岡 PR パンフレットをわたす場を設定する。 ・いろいろな国の方と交流した実感をもてるように、相手の国々にピンを挿し、福岡 PR 世界地図を作成したり、Thanks Card の QR コードから返ってきた感想を共有したりする場を設定する。 ・活動全体の学びを振り返ることができるように、まとめのレポートを作成する場を設定する。 	<p>思：海外の人に「福岡に行ってみたい」と思ってもらえるように、食や観光などの魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。</p>

5 本時 第二次 2時 (1 / 3) 2年〇組教室

(1) 本時の指導観

前時までに子どもは、比較級と最上級の文法を学習し、比較は相対的なものであることや比較対象は相互に既知のものである必要があることを理解している。また、比較級を用いてミニディスカッションを通して、簡単な文や語句を用いたり英文を引用したりしながら、自分の意見や根拠を即興で伝え合う活動を行い、おすすめランキング(食べ物編)について考えている。そこで、本時では福岡の食の魅力について根拠をもって伝え合い、ランキングを学級で決定することができるように、ミニディスカッションをする活動を設定する。

(2) 主眼

福岡の魅力についての自分の考えやその根拠を、英文を引用するなどして伝え合うことができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)

(3) 準備

①食べ物の写真 ②ホワイトボード(小集団に1つ) ③バインダー ④ワークシート

(4) 過程

学習活動・内容	準備	手だての内容・方法・留意点	形態	配時
<p>1 本時の学習の方向性を確認し、めあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> What is the good food in Fukuoka? What is the No.1? <p>おすすめランキング(食べ物編)を作ろう</p>	①	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動に見通しをもち意欲を高めることができるように、活動のモデルを提示し本時のめあてと活動内容を確認する。 	一斉	10
<p>2 おすすめランキングを作成する。</p> <p>(1) 小集団の中で、前時考えた自分なりのランキングとその理由を主張する。</p> <ul style="list-style-type: none"> I think Tonkotsu ramen is the No.1. It is the most popular ramen in Fukuoka. Why do you think so?/ Are there any good restaurants? / Have you ever eaten? <p>(2) 小集団でのランキングを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> the best food to eat... Tonkotsu ramen the second best... Gobo-ten udon. It is unique to Fukuoka. People in Tokyo don't know Gobo-ten udon. 相互評価 <p>(3) 学級でランキングの合意形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小集団の意見の共有 主張の根拠や理由 他者の意見に対する反応(賛成、反対、補足、賞賛など) 	② ③	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を添えて主張することができるように、前時の学習を振り返る場を設定する。 議論を深めることができるように、聞き手が質問するなどして話を引き出しながら交流する場を設定する。 相手に応じながら伝えることができるように、やりとりする場を設定する。 やりとりする力を向上させていくことができるように、ピアフィードバックの場を設定する。 魅力を表す内容を広げることができるように、意見を集約し整理する場を設定する。 	小集団 — 学級集団	30
<p>3 本時を振り返り、次時の予告を聞く。</p> <p>(1) 本時の学習を振り返り、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流の中で、比較の表現をたくさん使えた。友達の意見を聞いて、福岡について改めて良さを感じた。 	③	<ul style="list-style-type: none"> 成果や課題を認識し、今後につなげていくことができるように、学習を振り返り、共有する場を設定する。 	学級集団	10

1 単元構成とタスクについて

外国語の活動・単元をつくる際には、2通りの方法があると考えます。1つは、単元の導入で大きな課題(学習課題や最終目標など)を設定し、その後の時間に少しずつその課題の達成に向けて、進んでいくような単元設定である。もう1つは、単元の導入で課題を設定するが、その後の時間では別のタスクにも取り組みつつ、最終的に課題を達成できるように進んでいく単元設定である。前者の特徴としては、子どもが見通しをもって、思考を途切れさせずに主体的に課題達成に進んでいく良さがあると考えます。一方で、後者は様々なタスクの中で、言語材料を活用することで、知識を一般化し、汎用的なスキルを磨くことができる良さがあると考えます。実際においては、両者を使い分けながら単元を構成していくが、本発表においては、「福岡PR大使になろう(第2学年)」の単元は前者の考え方で単元計画をつくり、「アイデアで世界を救う(第3学年)」の単元は、後者の考え方で単元計画を作成した。

○「福岡PR大使になろう(第2学年)」について

一次で、京都市の令和4年京都観光動向調査から、その経済波及効果と出身国の割合を知り、「外国人観光客を福岡へ呼び込もう」という学習課題を設定した。二次前段では、「京都と福岡の共通点を見つけよう」や「最もカッコいい漢字を決めよう」などタスクを通して、言語材料である比較表現を学習した。二次後段で、修学旅行の探究班ごとに福岡をPRするパンフレットを作成し、三次では実際に京都での班別行動の日に、海外からの旅行者にむけてパンフレットを渡す活動を行う。

○「アイデアで世界を救う(第3学年)」について

一次で、大阪万博の動画を視聴し、「アイデアで世界の問題を解決しよう」という学習課題を設定した。二次前段では、「占い師になって友だちの悩みを解決する」「無人島に行って、生き残る」というタスクを通して、仮定法過去の表現を学習する。二次後段では、アイデアで世界を救うために、「チームをつくる」「資料を作成する」という段階を経て、自らのアイデアを紹介し合うExpoにつなげていく。

2 本時の授業について

○「福岡PR大使になろう(第2学年)」について

本時のポイントとして、以下の2点を提案する。

①ミニディスカッションの場を設定する。

生徒がその場で考えて会話を継続・発展させるためには、相手の発話を聞いている間、次は自分が「話し手」になることを想定してやり取りに参加する姿勢が求められる。自分の理解を確かめたり相槌をうったりするだけでなく、相手の答えを受けて、自分のことを伝えたり、相手の答えや自分のことについて伝えたことに関連する質問を付け加えたりすることが必要である。そのため、意見交流でなくディスカッションとして小集団内での解を出すことによって、相手の発話に関連する意見を述べたり、相手の答えに基づいて質問を行ったりする必要が生まれ、即興的にやり取りする力を伸ばすことにつながる。ミニディスカッションが即興的なやり取りとなるように、教師は意見を関連させるポイントを明示したり、質問や意見で活用しやすい表現のモデルを示したりする。

②ピア・フィードバックの場を設定する。

即興的にやり取りする力をさらに磨くことができるように、ミニディスカッションとピア・フィードバックを組み合わせる。たとえば、チームAがミニディスカッションしている間、チームBがその様子を参観し、ミニディスカッション後にフィードバックを行う。フィードバックが適切で有意義なものになるように、評価の視点（①自分の意見を伝える表現を活用していたか ②主張における理由や根拠は十分であったか ③相手に働きかける表現を適切に用いていた）にもとづいて教師は例を提示し、生徒なりの評価基準がある程度均質なものになるようにする。

○「アイデアで世界を救う（第3学年）」について

本時のポイントとして、以下の3点を提案する。

①子どもが If I were you の表現に気づくことができるように、教師のインプットを工夫する。

まず動画を視聴する場面で、If I were you の表現を教師が使う。また、指導案の2(2)の後にも、悩みを共有し、アドバイスするときに教師が If I were you を使う。その際、あくまでも「友だちの悩みを解決する」という内容に焦点を当てる。

②準備していない活動としての「悩み相談」

本時では、子どもたちは初めて「友だちの悩みを解決する」という課題に出会う。友だちの悩みに関しても、本時で初めて聞く内容である。指導案の2(2)では、文法上の正しさに囚われることなく、子どもが即興的にやり取りを行い、伝えたい内容を表現し、理解してもらうことを優先する時間とする。2(4)では、同様に内容に焦点を当てつつも、If I were you の表現を使ってやり取りする姿をめざす。

③教師の訂正フィードバック

本時では、例えば If I were you, I would give my smart phone to my mother. という英文を言うときに、If I were you, I give/ will give my smart phone to my mother. というミスが起こる可能性が考えられる。その際、recast や elicitation、必要に応じて explicit correction を行いながら正確さの度合いを上げることができるようにする。